

西美濃天文台



西美濃天文台全景

西美濃天文台が移設竣工

今年5月末から藤橋城（西美濃プラネタリウム）の横へ移設する工事が行われていた西美濃天文台がこのほど竣工しました。

観測ドームもサイズアップし、耐雪仕様になりました。白と黒を基調としたシンプルな外観で隣接の藤橋城とのデザイン的な整合性が図られています。

1クラス40名程度が利用できる広さの研修室で視聴覚機器を用いて天文・宇宙の学習ができますし、その屋上では星座の観察などができるようにしてあります。

1階部分はトイレの内部も含めてバリアフリーに配慮した構造で、電動リフトを利用して2階の観測室へ上がることができる身障者対応施設です。

いつでも見学窓から大きな望遠鏡が設置されたドーム内部を見られるように、自由に見学できる階段室もあります。まずはどんな施設なのか、一度のぞきにきてください。



見学窓から見た観測室

積雪期は休館になりますので、本格稼働は来年の4月からになります。降雪があるまでは年内にも利用できます。事前のご予約が必要ですので、詳細につきましては電話でお尋ねください。

【お問い合わせ先】

藤橋振興事務所 天文施設係

TEL 52・2111

デジタル方式の太陽望遠鏡

今回新しく太陽望遠鏡が設置され、夜だけでなく昼も使える天文台になりました。

高解像度のデジタル・ビデオカメラで撮影した太陽の画像は、天文台の研修室、藤橋城のビデオ展示室やプラネタリウム内で観察できます。肉眼でまぶしく輝く太陽の表面のようすを、安全にそして鮮明に映し出します。太陽は数年後の活動最盛期に向けて、徐々に活発な変化を見せてくれることでしょう。



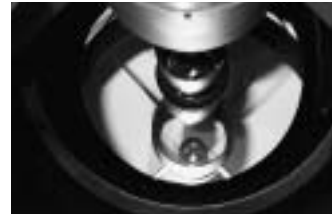
太陽望遠鏡本体

主望遠鏡をリニューアル

白銀に輝く直径6.5 m 観測ドームの中に設置された反射望遠鏡は、

これまで使用していたものをメーカーの工場へ運び、完全オーバーホールしたものです。

望遠鏡の内部を覗き込むと、直径60 cmの反射鏡（望遠鏡の集光レンズ）も写真のようにピカピカです。



望遠鏡内部の反射鏡

この望遠鏡はコンピュータを使って動かせます。画面に表示される星図上で見たい天体を選択すれば自動的に目標天体に向きを変え、その視野に天体を捉えます。

月の表面が眼前に迫るのも圧巻ですが、眼には見えない何百万光年という遠い銀河の姿も観察することができます。



6.5m 観測ドーム



60 cm 反射望遠鏡

江戸時代の簡天儀改良型

江戸中期の天文台では天体の位置を測定する渾天儀こんてんぎやその簡易型の簡天儀が用いられていました。藤橋城の横へ移設されることに伴って、それを模してステンレス材で再現しました。

この西美濃天文台改良型では誰でも簡単に北極星を見つけられる指標環を設けました。さらに昼間は日時計としても機能するように工夫がしてあります。古今東西、このような装置は他に類を見ません。まさにオンリーワンの設備です。



再現された簡天儀

安全設備・楽しい設備

天文台は元来、夜間に利用する施設ですから、安全に利用できるように階段足元灯やセンサー内蔵の光る手すり、蓄光式の階段滑り止めなどの安全設備があります。そして来訪者に居心地の良さを感じていただけるように、館内の随所に工夫がなされています。ぜひ一度、天文台を訪れて宇宙を身近に感じながら楽しい体験をしてみてください。



階段足元灯と光る手すり

星を見る会のお知らせ

☆「星を見る会」

12月9日（土）午後7時～8時

参加費：高校生以上300円

小中学生 200円

★随時利用：5名以上のグループで利用できます。事前予約が必要ですので、詳細は次までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

藤橋振興事務所 天文施設係 TEL 52・2111